

たわいのないコミュニケーションこそ

中根裕理佳 学生

貴重なご講義ありがとうございました。

病気になってよかったことは無いとのことでしたが、病気に打ち勝つために、今日まで強く生きてこられたということがよく伝わる講義でした。

人間、誰しも生きて行く中で困難が訪れますが、困ったことを解決するための手段を知ることが大切だと思いました。それが病気だった場合、まずは自分の病気のことを知る、というところから始まると思います。

そのための、レセプト開示や、オープンカルテ等があることを知りました。また、添付文書からは、薬の作用だけでなく、副作用を知ることも可能になることから、自分自身で情報を収集していくための手段を学びました。

専門職とのコミュニケーションも非常に重要であることを学びました。お話の中に、雑談ができる看護師の存在が大きかったとのお話がありました。私自身、現在保健師免許の取得のため、大学院で学習を進めており、去年、看護師免許を取得したばかりです。看護師も保健師も、活動する場所は違っても、病気の予防、治療に携わる支援者ですが、対象者の方と関わる時、その方の病気を見るのではなく、その方自身を見る、つまり1人の人として関わること、がやはり重要だとこのお話から感じました。たわいのないコミュニケーションこそ信頼関係、治療効果につながるということが学びました。

加えて、当事者の問題意識や、病気を持ちながらの生活について、視野を広げる手段として、患者会や、ピアサポート、セルフヘルプといった、ご自分の経験を活かして支援に繋がっている団体も多くあるということも学びました。

お話の中で、やりたい仕事をやるのか、やれる仕事をやるのかという問題で、やりたい仕事にこだわる必要はなく、できることからやっていく、やりたいことは趣味で楽しむことで、バランスを取るという形があるということや、落ち込むことは悪いことでは無い、というお話がありました。ここから、池上さん自身が、病気がありながらも強く生きるロールモデルとなっていく存在である方だと感じ、同時に、みんなに希望を与えている存在であるとも感じられました。

本日は当事者の視点からのご講義から、たくさんの学びを得ることができました。これからも、当事者目線で多くのことを発信し、ロールモデルとして活動し続けて欲しいな、と勝手ながら感じました。

貴重なお話ありがとうございました。

